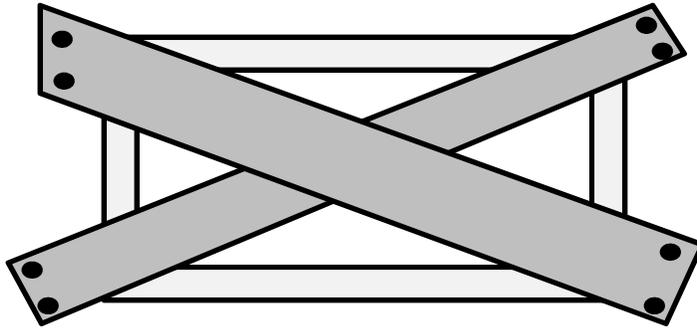


「窓に板を打ち付ける」という台風対策について調査

101 鈴木 龍太

まえがき

これは先日台風が関東地方へ襲来した際に、ふと筆者が思ったことである。一昔前の漫画などを見ると、台風が来た時のシーンに於いて登場人物が台風対策として建物の窓に板を下図のように×印にして打ち付けて貼っている描写を見かけることがある。



板を張り終えた後、登場人物は満足気に「これで台風対策はバッチリだ」というセリフを言う。しかしながら、考えてみると筆者は実際にこのように窓に板を貼っている家を見たことも、またこのように貼ったことがあるという話も聞いたことがない。いや、そもそもこれに意味が有るのかという疑問まで湧いてきた。この「対策」は本当に正しい台風対策と言えるのだろうか？ それとも単に筆者が知らないだけで実際に行っている所もあるのだろうか？ 筆者なりにこの「対策」について調査を行い、考察してみることにした。

調査

とりあえず、「台風対策」で Google 検索を行ってみると、このページが一番上の検索結果として出てきた。

http://www.city.kaizu.lg.jp/syoubouhonbu/taifuu_taisaku.jsp

これは岐阜県の海津市という市のサイトの一部で、市民に台風対策について呼びかけるページの様である。早速このページで窓に板を×印にして打ち付けている図を発見した。図の下に記述されていた説明によると、これはひび割れや窓枠のガタツキ、強風による飛来物への対策とのことである。確かに板を張ることによって強風にさらされる窓の表面積は減るし、板を外壁と窓枠に密着させるようにして貼れば窓枠は固定されるだろう。しかし、ここで疑問に思ったのは、実際に強風で窓が割れたり、窓枠が激しくがたついた末に窓が窓枠ごと外れたりするという事は有りうるのだろうかという事だった。また、飛来物対策としてもこのような中途半端な貼り方では、大型の飛来物に対してはともかく、小石などの小型の飛来物に対して

は板で隠しきれていない部分に当たってしまう可能性も否定できないと思う。

次の検索結果のページを見てみた。

<http://www.ienakama.com/tips/page/?tid=309>

今度は「家仲間コム」という家のリフォームや修理にかかる費用を見積もるサービスを行っているサイトの、「住まいのTIPS」という住まいに関する知識が掲載されたコーナーの一部である。このページによる情報によると、窓が割れる主な原因は強風による風圧よりもむしろ飛来物が窓に当たることにあるらしい。また、このページでは飛来物によって割れたガラスの破片が屋内へ散乱したり、ガラスが割れてガラスに穴が開くことで雨風が屋内へ入ってきたりするのを防ぐために防犯フィルムを使用することを推薦していた。

他にも様々な窓の台風対策が載っているサイトを調べてみたが、その大半が物干し竿や植木鉢が飛んで行かないように降ろす又は屋内にしまう、雨戸を閉める、ガムテープを内側から貼る、といったことが書かれており、板を貼ることを推奨している又は貼ったことがあると書いてあるようなサイトは殆ど見当たらなかった。

結論

結局のところ、板を貼るよりも、保護フィルムやガムテープ等を使用した方がずっとコストも手間もかからずに済むのだということだろう。確かに、僅かながら板を貼ったことがあるという体験談や、実際に貼っている画像も見つけることができた。しかし、それはかなり昔の話だったり、或いは古い木造建築の建物に於いての話だったりというケースで、更に×印のようにして貼るのではなく窓をすっかり覆うようにして貼っている。少なくとも現代の建築技術で作られた建物及びその建物の窓なら、強風によって窓が割れたり外れたりすることはまず無いことであり、特に最近窓に予め保護フィルムが貼られていたり、格子やシャッターがついている家も少なくないようだ。むしろ板などを貼っていたら、その貼った板が強風によって剥がされて飛ばされてしまうことも考えられるのでかえって危険だろう。

そもそも、この×印にして板を貼るという絵図は誰が最初に考えたのだろうか？昔ですら殆ど実際に行われていたとは思えないものなのに、なぜこのような絵図が生まれたのか？それはわからないが、恐らくこれは漫画等にみられる所謂デフォルメ的な表現の一つだと思われる。実際にほっかむりを被っている泥棒や、尖ったメガネを掛けて語尾に「～ザマす。」とつけている教育ママを見かけないのと同様に、これも漫画特有のデフォルメの一つなのだろうという結論に筆者は達した。

最後に、この記事を読んでもらった方々に、今後台風による甚大な被害に遭うことが無いよう祈る。